

新春のご挨拶

Greeting

～ 21世紀の万国津梁に向けて～

沖縄総合事務局長

つち や ゆう し
槌 谷 裕 司



新年明けましておめでとうございます。皆様には、平成25年のお正月をご家族とともに清々しい気持ちで迎えられたこととお慶びを申し上げます。

昨年を振り返りますと、太平洋・島サミット、沖縄科学技術大学院大学（OIST）の開学、豊かな海づくり大会など、沖縄が本土に復帰して40周年を記念するにふさわしい歴史的なイベントが数多くありました。幸いにして、これらのいくつかに立ち会う機会を得て、沖縄の底力と「21 世紀の万国津梁」に向けた新しい時代の息吹を感じ取ることができました。

沖縄経済を総じて見ますと、県民の皆様のたゆまぬご努力によって、幾多の困難を乗り越えて力強い発展を続けているところであります。

改めて、今日の沖縄が持つ優位性に目を向けますと、

第一に、亜熱帯の地・沖縄には、青い海、青い空だけでなく、この地でなければ産しない珍しい島野菜、島豚、沖縄和牛など海山の恵み、独特の文化・芸能、もてなしの心や癒しの空間など個性豊かな地域資源が多種多様に見られます。

多様性 (diversity)

第二に、沖縄は、食品加工等の産業が盛んで、バイオ系のベンチャー企業や研修医、理学療法士なども多い、全国でも有数の地域です。また、イノベーションを起こす拠点となり得るOISTなどの研究・教育活動も本格化しています。

知恵 (talent)

第三に、臨海、臨空インフラの整備等が進むにつれて、内外から多くの観光客が訪れ、シーズンオフともなれば、温暖な気候を求めて、プロ野球やプロサッカーの選手がキャンプを張るなど「ヒトの流れ」が盛んです。さらに、発展するアジアの中心にある地の利を生かし、アジア to アジアの宅配サービスが始まるなど、県都那覇を国際物流ハブとした新たな「モノの流れ」にも展望が開けてまいりました。

交流 (plaza)

このように、繁栄の源である「多様性」(diversity)と「知恵」(talent)、「交流」(plaza)=DTPの三拍子を兼ね備えた沖縄は、今や、震災後の日本経済の再生にも寄与することが期待される「日本のフロンティア」と呼ぶにふさわしい地域であると言えます。

新春を迎え、沖縄総合事務局といたしましては、新しい沖縄振興法制の下で、沖縄県とも緊密に連携を取りながら、

- ①観光や物流、ヒトとモノの流れを支える社会資本等の整備
 - ②地域資源を活用した六次産業化などの取組への支援
 - ③基地跡地等を視野に置いたまちづくりへの支援
 - ④住民の安全・安心と事業継続を確かなものとする防災・減災対策
- いずれも競争力を高め、富を生み出す取組を進めてまいります。

特に地域振興の担い手である市町村や関係団体の皆様の声にも良く耳を澄ませながら、国の総合出先機関が持つ様々な政策手段と専門性、「総合力」と「現場力」を最大限に発揮して、地域の主体的な取組を応援してまいります。

職員一同、「いつもさわやかワンストップ・サービス」を合い言葉に、真に役立つ行政サービスに努めてまいる所存ですので、引き続き格別のご理解とご協力を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様とご家族にとりまして実り多く、健康で幸せに満ちた飛躍の年となりますようお祈りして、新春のご挨拶といたします。